

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		下関市こども発達センター はたが園		公表日		7年 2月 28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	6	空き部屋の利用やスペースの有効活用（各クラス交代制でホール、プール、園庭等の使用）をしている。部屋の広さに対してスタッフ、子どもの数が多いが、少人数制の活動を取り入れたり環境調整（音や人、物、動きの統制）をして対応している。	施設基準は満たしているものの構造化などにより狭いと感じられるかと思われる。空き部屋を活用し活動やお子様の様子に合わせて少人数療育で環境調整や刺激の統制をして対応していきたいと思えます。また、施設の老朽化による機能面での課題について検討します。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	17	3	職員の急な休みの日には人数が足りないと感じることがあるが、フリー職員や他クラス職員と連携、協力し園児数に対して適切な職員配置になるように工夫、補充している。	各クラスの職員は適切に配置してありますが、今後もお子様の特性や状態に配慮して余裕のある人員配置に努めてまいりたいと思えます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20	0	パーテーションなどを利用して構造化し、お子様に対してわかりやすい活動空間や、集中できる個別空間を確保しています。視覚支援等の伝達ツールを活用して、コミュニケーション能力の向上にも努めている。	今後も構造化や視覚支援、合理的配慮をしてお子様にとって過ごしやすく、成長につながる療育支援に努めます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	4	老朽化が目立っている状態に合わせて随時修繕買い替えをしている。預かり保育などで清掃の時間がしっかりとれないことがあるので時間の確保と調整をしていきたい。	毎日の環境整備、遊具玩具等の安全点検、清掃消毒に努め心地よく過ごせる環境を作っていくとともに、活動内容によって環境を調整しながら充実した療育へとつなげます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	2	情緒面への配慮や安全性の確保を迅速に対応できるように環境が整っている。個別に利用できる部屋が少ないがクラス間で調整しながら子どもたち一人ひとりが落ち着いて過ごせる空間確保に努めている。	今後も各クラスで連携をとりながら空き部屋等を利用して、お子様の情緒の安定や活動の充実に配慮します。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	20	0		時間差勤務の職員やフリー職員との連絡会議や情報共有、情報交換の時間を確保し多くの職員で支援についての協議をします。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	0	保護者評価表や保護者会より頂くアンケート結果を踏まえてその都度見直しや改善を行っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	0	職員会議やアンケートなどで職員の意見が共有され、改善に向けてが反映されている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	20	0		令和5年12月に受審し、結果を踏まえて改善しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	0	パート職員も積極的に研修に参加することが出来ており、職員全体で専門性の向上に向けた取り組みがされている。施設内でも職員研修の機会が多くあり療育を見直す機会になっている。			
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1	令和6年度に5領域に基づいた支援プログラム作成。公表する。	5領域に基づいた支援プログラムを公表し、個別支援計画にも反映させながらお子様の成長発達につなげます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20	0	専門職（臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士）がアセスメントを行い、共有し個別支援計画を立てている。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20	0	年数回、専門職（臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士）がアセスメントを行い、共有し個別支援計画を立てている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20	0				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	20	0				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19	1		今年度も「本人支援」「家族支援」「移行支援」等の必要な項目を個別支援計画の中にわかりやすく記載し保護者の方々と一緒に目標設定や支援内容の検討を行うようにしています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	1		クラスリーダーが中心となって立案していますが、フリー職員、ヘルプ職員などとも共有し、時間をとって計画を立てていきたいと思えます。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	1		活動が固定化しないよう、研修等で新しい活動を学んだり、情報交換するなかで幅をひろげ、新しい活動を取り入れていきたいと思います。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	20	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	19	1	勤務時間の関係で出来ないこともあるが、連絡ボードやミーティングノートを活用し連絡、連携をとるようにしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	16	4	バスの添乗や延長保育スタッフ、また勤務時間の関係で、日々することは難しいが出来るだけ振り返りを行い、気づいた点についてもその都度、共有確認するようにしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0	日常の様子を含め、変化や特記事項などがある時には記録をとり支援に活かしている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20	0	専門職を含めたケース会議や保護者との面談で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20	0		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20	0	自立支援協議会、こども部会、通所分科会等で連携し支援体制を整えている。主治医とも必要に応じてカンファレンスを行っている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0	必要に応じて担当者会議などで情報共有をしている。インクルージョンに向けてコミュニケーション面や基本的な生活習慣の獲得などを重点的に支援している。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0	必要に応じて学校に訪問したり見学に来ていただき連携をとっている。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20	0	自立支援協議会、こども部会、通所分科会等で連携し支援体制を整えたり、研修会、事例検討会などで職員のスキルアップを図っている。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20	0	外部研修に積極的に参加したり、コンサルテーションや内部研修に来ていただき助言をいただいている。	
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	20	0	児童発達支援センターとして積極的に参加し、必要に応じて企画、運営している。	
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	16	就園や移行に向けた取り組みの中では交流に参加している。以前は地域の幼稚園保育園と交流保育をしていたが、コロナ感染症の流行以降機会がなくなった。	感染症の流行で交流の機会が減っていましたが、地域の幼稚園、保育園等と相談し検討していきたいと思います。また、就園などを検討されている保護者の方には交流保育の機会の情報提供などをしていきたいと思います。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0	パート職員は話す機会が少ないが日常生活の様子や、興味のある遊びや活動については出来るだけお伝えするようにしている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	20	0	新入園児保護者研修、施設内研修(運動発達、言語発達、構造化、視覚支援、子育て、発達特性)等の研修会を行っている。	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20	0	入園時や個人面談などで説明をしている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	0	お子様の発達段階や保護者の方々の意向を踏まえて個別支援計画を作成している。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	0	個人面談で確認して頂き同意を得ている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	0	連絡帳や日々の会話、個人面談でお話を聞かせて頂き、アドバイス等を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20	0	きょうだい児がセンターで活動する「きょうだいのおまつり（きょうだい児支援）」ではセンターの事を知って頂いたり、きょうだいの園での様子を直接見たり出来る。また、同じ立場のお友達との交流、情報交換などが出来るとも有意な機会となっている。 父親の会、保護者交流会、参観日、クラス懇談会等もあり、母親以外の家族同士の交流の機会も作っていて、園の活動や方針、職員の雰囲気や支援等についても知ってもらっている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20	0	年間行事予定表、園だより、クラスだより、センター広報誌などで行事予定や活動概要をお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	視覚支援や合理的配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	6	運動会では地域の方を招待して参加して頂いているが広くは広報していない。以前は夏祭りなどで地域の方にセンターやこどもたちについて知って頂く機会としていた。	今後も運動会やクリスマス発表会等でご招待し、センターの事を知って頂く機会としたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20	0	令和5年に安全計画【緊急時対応マニュアル】（食事、プールあそび、園外活動、不審者対応）【通園バス送迎安全マニュアル】【BCP業務継続計画】【感染症対応マニュアル】【保育環境遊具安全チェックシート】を作成し、職員会議や研修の機会を設けて職員への周知をしたり、保護者の方にも参加して頂いた訓練等を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20	0	毎月の避難訓練や、年1回の総合消防訓練や緊急時引き渡し訓練などを行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20	0	事前にお医者様からの意見書や診断書の提出、また、問診表を保護者の方に記入していただき確認するようにしている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0	主治医からの診断書や指示書をいただき緊急時対応マニュアルを作成、周知している。センター内の医師や看護師を含めた体制を整えている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20	0	令和5年に安全計画【緊急時対応マニュアル】（食事、プールあそび、園外活動、不審者対応）【通園バス送迎安全マニュアル】【BCP業務継続計画】【感染症対応マニュアル】【保育環境遊具安全チェックシート】を作成し、職員会議や研修の機会を設けて職員への周知をしたり、保護者の方にも参加して頂いた実施訓練等を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	20	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20	0	ヒヤリハットや事故報告書の情報を共有、改善策対応策を検討、周知し再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を設置し毎月協議、また、職員研修会やセルフチェックなど年数回実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	0	主治医や運動訓練等の専門職も含め協議、決定し保護者の方に「座位保持椅子などの使用に関する同意書」をいただいたり、身体抑制時刻を記入している。個別支援計画にも記載している。		